

キャッシュレス推進協議会 議論の状況報告

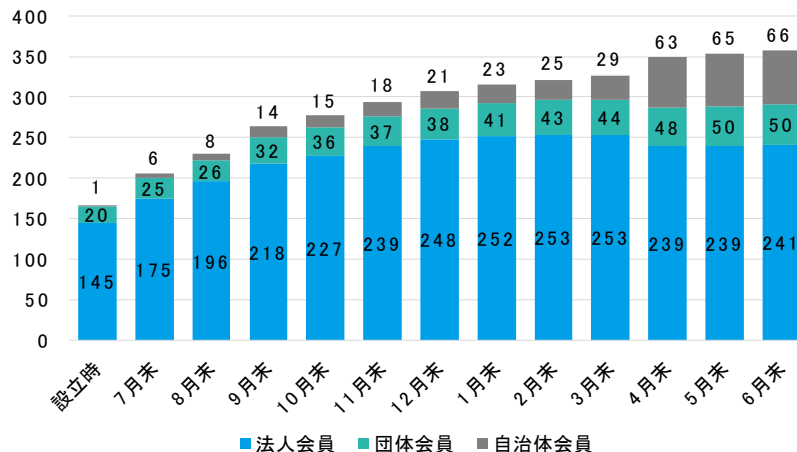
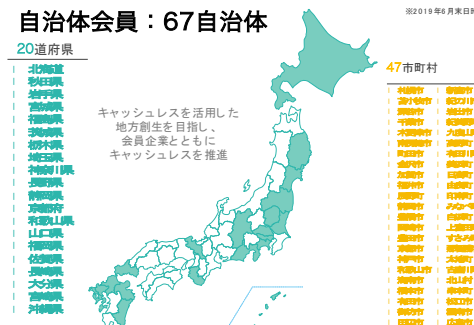
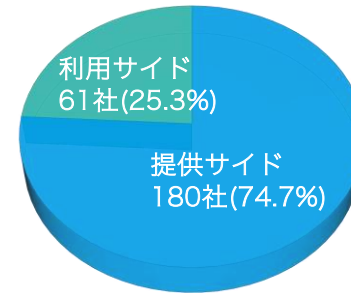


星川高志
一般社団法人Fintech協会 理事
クラウドキャスト株式会社 代表取締役
<https://crowdcast.jp/>

キャッシュレス推進協議会

概要

- 創立: 2018年7月
 - 一般社団法人 (非営利)
- 加盟数: **358** 企業/団体 (2019年7月末)
 - 法人 (ベンチャー含む): 約250社
 - 団体と自治体: 約100
- ホームページ
 - <https://www.paymentsjapan.or.jp/>
 - 会員サイトあり

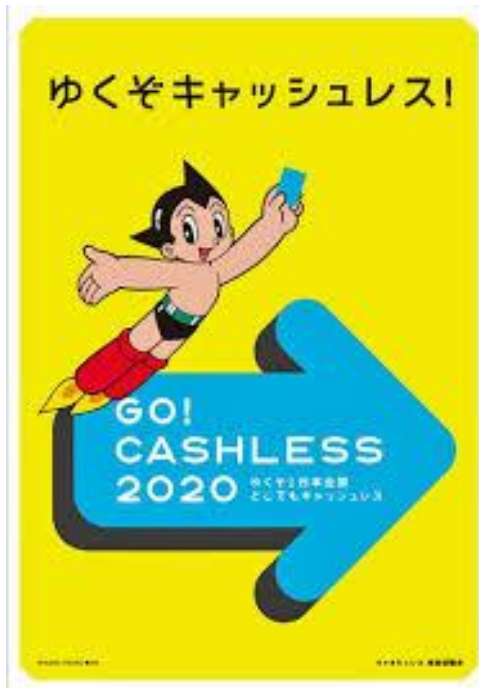


オブザーバー



国内キャッシュレス推進

目的は共通



2015年

20%



TOKYO 2020



OSAKA-KANSAI/JAPAN
EXPO2025

40%

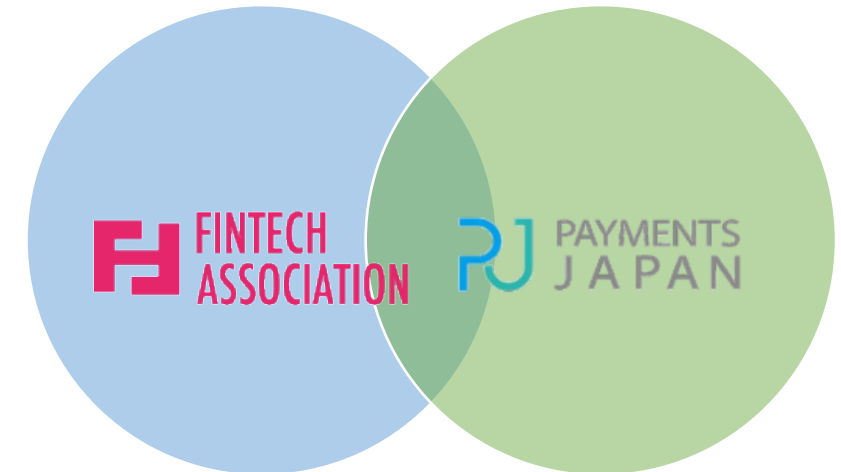
その数年後

80%





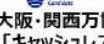






(出所) 2018年2月 経済産業省「キャッシュレスビジョン」より作成

Fintech協会との関係

- 目的は共通
 - キャッシュレスビジョンの実現、**中立**な立場
 - **非競争領域** (共通規格の標準化など) で各社協力/議論
 - 会員構成、視点、アプローチ、スコープの違い
- Fintech協会として (~2018年度)
 - 経産省「キャッシュレスビジョン2018」作成へ参加
 - 創立メンバーとして団体加盟
 - 丸山代表がCL推進協議会の**理事就任**
 - 受け皿となる「キャッシュレス分科会」を設立
 - 主要なプロジェクトへ参加
 - APIガイドライン整備の**PJリーダー担当**
 - [成果] キャッシュレス決済データ利活用に係るAPIガイドライン案、電文仕様、API利用契約の雛型を策定、3月末にパブコメを募集

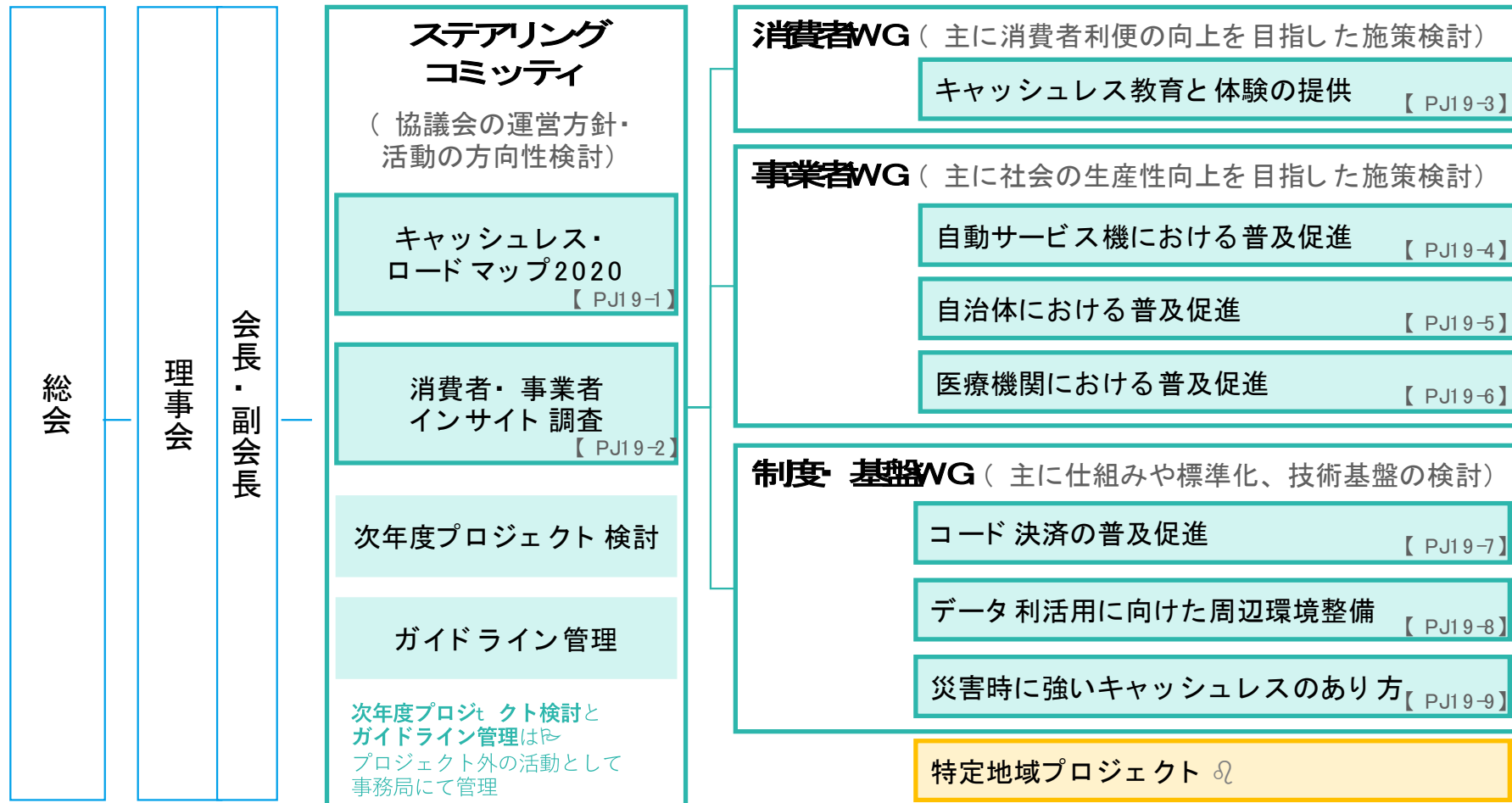
The logo for JPOR, consisting of the letters 'JPOR' in a bold, black, sans-serif font. The letter 'O' is replaced by a solid red circle.

キャッシュレスロードマップ

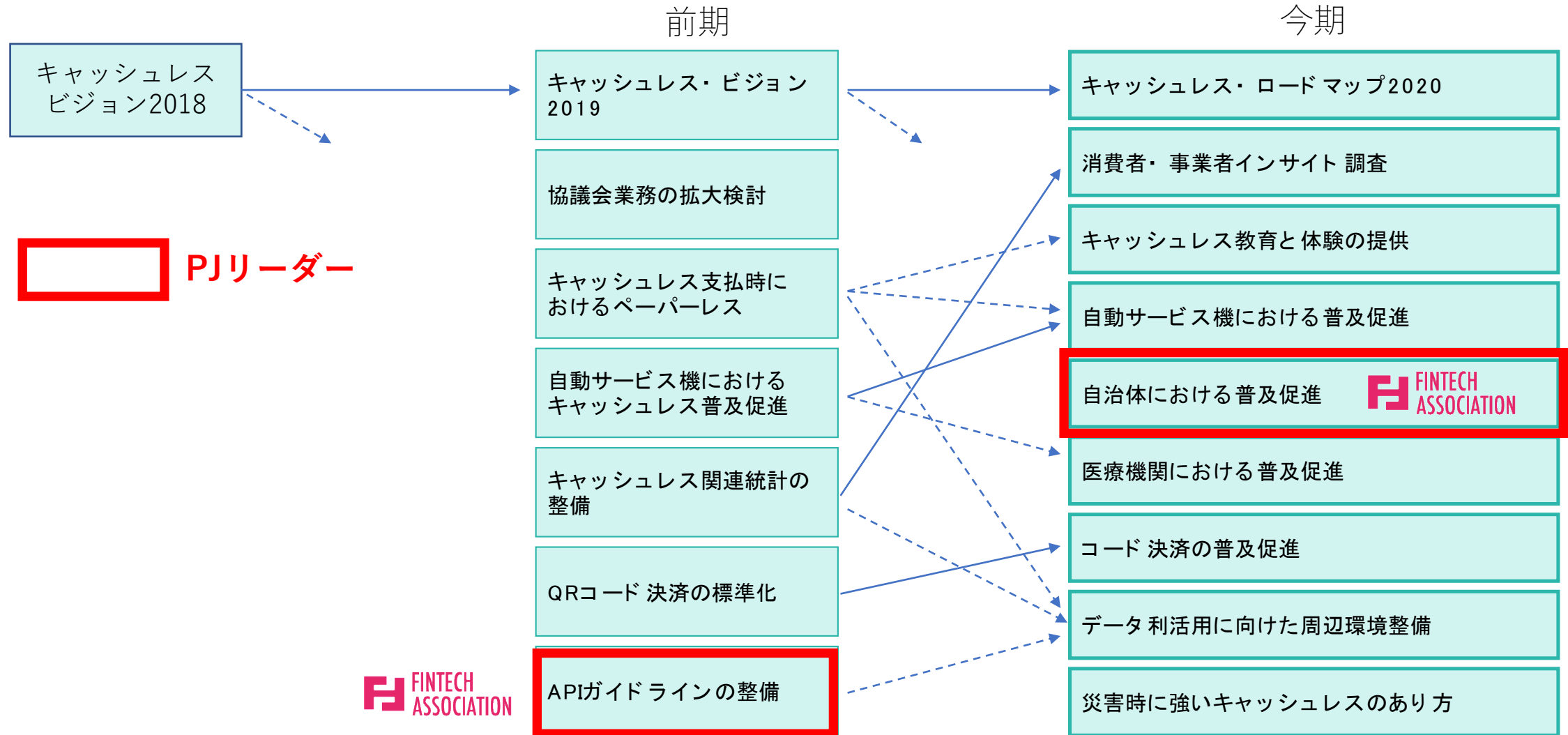
凡例	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2027年度
<p>期間で行う活動</p> <p>スポットで行う活動</p> <p>イベント</p>	 ラグビーワールドカップ 消費者還元事業	 東京オリンピック  パラリンピック競技大会					 OSAKA-KANSAI JAPAN EXPO 2025  大阪・関西万博 「キャッシュレス 決済比率40%」	日本全国、 どこでも誰でも キャッシュレス
キャッシュレス社会の姿								
①自分のライフスタイルにあったキャッシュレスツールが選択可能	<p>消費者自らキャッシュレスツールを選択して利用できる環境整備（教育活動・体験事業）</p> <p>「安心・安全・安定」を訴求する活動（不正利用補償・災害に強い）</p>							
②キャッシュレス対応の店舗等が多い	<p>受入ハードル低下に向けた環境整備</p> <p>運用オペレーション負担削減</p> <p>訪日外国人対応（観光地・商業地）</p> <p>公共サービスのキャッシュレス対応</p>							
③キャッシュレスで支払うとお得（二重価格）	<p>消費者還元事業対応</p> <p>還元事業を最大限に活用した活動</p> <p>大阪・関西万博向けインフラ整備</p> <p>店舗における現金コストの見える化（キャッシュレスシフトと消費者へのインセンティブ付与）</p>							
④レジという概念がなくなる	<p>キャッシュレス専用レーン調査</p> <p>キャッシュレス専用レーン拡大</p> <p>事前注文・受取レーン、無人レジ拡大</p> <p>リ・スクリプション対応</p> <p>5G商用化対応</p> <p>決済の超高速化、IoT決済（決済データ大量化）対応</p>							
⑤個人間送金はデジタルで行われる（インターオペラビリティ）	<p>共通ID/eKYC検討</p> <p>共通ID/eKYC構築</p> <p>（キャッシュレスサービスの利用開始のハードル低下）</p> <p>相互運用性の他国事例調査</p> <p>相互運用性のニーズ及び実現方法の具体化</p> <p>相互運用性が確保された個人間送金（異なるアプリ等のサービス間での送金が可能に）</p>							
⑥データ活用により生活の利便性が向上	<p>各種マスク内容検討</p> <p>地域でのデータ蓄積（災害時照会対応等）</p> <p>地域でのデータ活用（地域活性・マーケティング）</p> <p>地域でのデータ活用（地域間連携）</p> <p>データフォーマット内容検討</p> <p>業界共通データ連携</p> <p>サンドボックス内容検討</p> <p>店舗・決済事業者・サードパーティーがデータレイクやサンドボックスを利用してサービス創出</p>							

2019年度プロジェクト (CL推進)

- FY2019プロジェクト
- 特別プロジェクト (期中開始)
- 非プロジェクト 活動



2018~2019年度PJ (推移)



2019年度の活動 (Fintech協会として)

- 期間
 - 2019年4月～2020年3月
- PJリーダー
 - **自治体における普及促進**
 - プロジェクト(PJ)の取りまとめ
 - 議論の進行、成果物の作成を担当
- PJメンバー
 - 主要プロジェクトへ参加
 - 理事/事務局で分担
 - 意見出し、情報共有

メンバー数

今期

109

キャッシュレス・ロードマップ2020

45

消費者・事業者インサイト調査

30

キャッシュレス教育と体験の提供

85

自動サービス機における普及促進

42

自治体における普及促進



34

医療機関における普及促進

138

コード決済の普及促進












74

データ利活用に向けた周辺環境整備

21

災害時に強いキャッシュレスのあり方

2019年度PJ担当/参加状況

	PJリーダー	PJメンバー (個社として参加含む)
キャッシュレス・ロードマップ2020		金森(事務局)  Sony Financial Holdings
消費者・事業者インサイト調査		星川(理事)  CROWD CAST POWER TO THE CROWDS  Infcurion
キャッシュレス教育と体験の提供		星川(理事)  CROWD CAST POWER TO THE CROWDS  Infcurion
自動サービス機における普及促進		=> 特にセルフレジ (書面交付)  Capgemini
自治体における普及促進 	 Infcurion	<= 丸山代表、事務局
医療機関における普及促進		落合 (仮) <= メンバー募集 
コード決済の普及促進		 Infcurion
データ利活用に向けた周辺環境整備		金森(事務局)  Sony Financial Holdings
災害時に強いキャッシュレスのあり方		

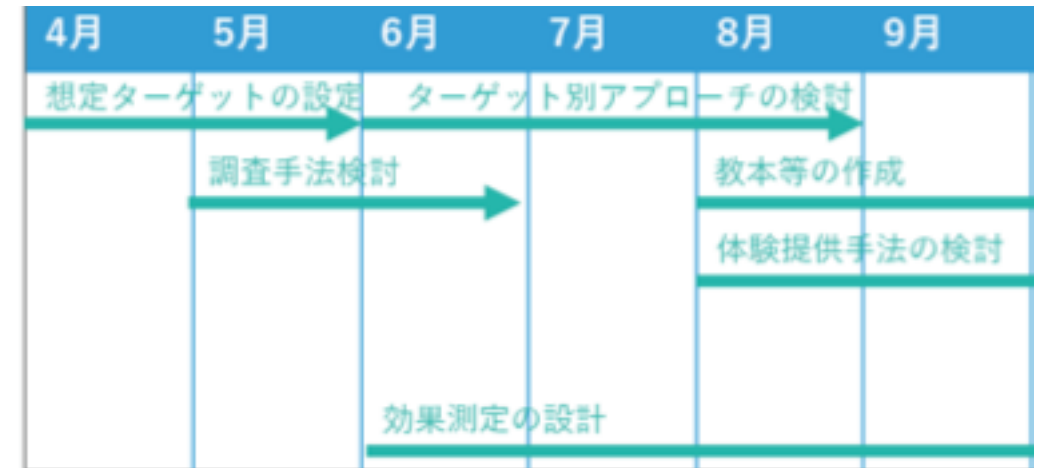
活動PJ例: CL教育と体験の提供

背景	目的
<ul style="list-style-type: none"> • 消費者の多くが、キャッシュレスに対する正しい知識を有していない • キャッシュレスを体験せずに、拒否感を示す消費者も少なからず存在する • 他方、キャッシュレスを行うにしても、何から実施すべきかから悩むケースも多い 	<ul style="list-style-type: none"> • キャッシュレスに対する正しい理解に加え、実際に体験することでその利便性を実際に経験し、定着させる • キャッシュレスのメリットを、具体的な値として、把握する • 実証事業における、実施手法の雛形（マニュアル）の策定
実施事項	想定成果物
<ul style="list-style-type: none"> • ターゲットとすべき対象の検討 • ターゲット別のアプローチの検討 • 教育及び体験のツールの検討、準備、作成 • キャッシュレス教育と体験の提供 • 効果測定の実施 	<ul style="list-style-type: none"> • キャッシュレス教本 • キャッシュレスの導入による各種効果 • キャッシュレス教育と体験の提供に関するマニュアル

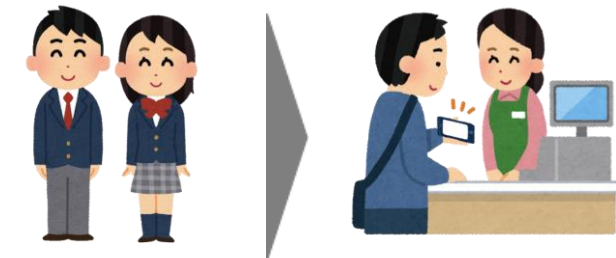


活動PJ例: CL教育と体験の提供

- PJリーダー
 - 福田 事務局長 (CL推進協議会 理事)
- 参加者
 - 25~30名程度
- 検討会
 - 6月末スタート、月1回、2時間程度
 - 第1回 6/20、第2回 7/30、第3回 8/29
- 議論の状況
 - 活発な議論
 - 想定ターゲットの議論が終了
 - 一旦高校生を設定
 - これをベースに広げる方向
 - Fintech協会からの提案
 - 実際に高校生、先生方にインタビューを事務局側に依頼
 - アーリーマジョリティ狙い、スマホ前提が良いのでは
 - 既存ネット/スマホ/SNS教育マテリアルを参考にすべきでは、など
 - 次はアプローチの検討に入る



検討会実施 ● ● ●



Next steps

- CL推進協議会の議論はまだ前半戦
 - アウトプットは今から
- **協力者募集**
 - CL推進協議会のPJに対して、Fintech協会「キャッシュレス分科会」メンバー側のリソース不足
 - 全て、特に
 - 個社として関係あるPJ (個社としては意見しづらいけど。)
 - 個人として強い興味があるPJ
 - 担当アサインできていない「医療機関における普及促進」PJ、など